

庄川・小矢部川河口沖におけるシロエビ幼生の分布 ～神通川河口沖との比較からみえてくるもの～

海洋資源課 主任研究員 中島 一步

1 背景・ねらい

シロエビは、十脚目オキエビ科の遊泳性のエビで、専門の漁業が営まれているのは富山湾だけである。平成8年には「富山県のさかな」に認定されているほか、「富山湾の宝石」の呼び名で広く知られており、富山県における重要な水産資源の一つとなっている。

富山湾のシロエビは、河川が流入する海底谷を中心とした比較的狭い海域で生活史を完結させていると考えられており、シロエビ漁業もその様な海底谷が存在する庄川・小矢部川河口沖や神通川河口沖等の海域で営まれている。

神通川河口沖では、シロエビ幼生～成体の分布が明らかにされているが、庄川・小矢部川河口沖ではシロエビ幼生の分布が調査されていない。このため、本研究では、これまで知見がなかった庄川・小矢部川河口沖の海底谷におけるシロエビ幼生の分布状況について調査した。

2 成果の概要

庄川・小矢部川河口沖のシロエビ漁場周辺の海底谷に4定点を設け（図1）、2017年5～11月（9月を除く）にLNPネット（直径0.45m、目合0.335mm）を用いてシロエビ幼生の採集調査を実施した。採集したシロエビ幼生は、Nanjo et al. (2008)により、第1～第4幼生（以下、初期幼生と呼ぶ）とデカポディッドに分類して計数し、分布密度を推定した。また、各個体の頭胸甲長を測定した。得られた結果を、2017年に神通川河口沖で実施したシロエビ資源モニタリング調査の結果と比較した。

庄川・小矢部川河口沖では、海底谷の谷頭付近の調査点に初期幼生とデカポディッドが高密度に分布していた。また、谷頭付近に分布するデカポディッドは頭胸甲長2～3mm台の小型個体を中心であった。当該海域におけるシロエビ幼生の分布特性は、神通川河口沖の海底谷の谷頭周辺海域のそれと類似していた（図2、図3）。

3 成果の活用面・留意点

庄川・小矢部川河口沖の海底谷の谷頭周辺海域は、神通川河口沖のそれと同様に、富山湾のシロエビ資源を支える重要な海域であると考えられる。このため、富山湾のシロエビ資源を持続的に活用していくためには、これらの海域における定期的なモニタリング調査と漁業者による適切な資源管理を継続することが重要である。

4 問い合わせ先

富山県農林水産総合技術センター水産研究所 海洋資源課
担当：中島 一步
TEL 076-475-0036

(参考) 具体的データ

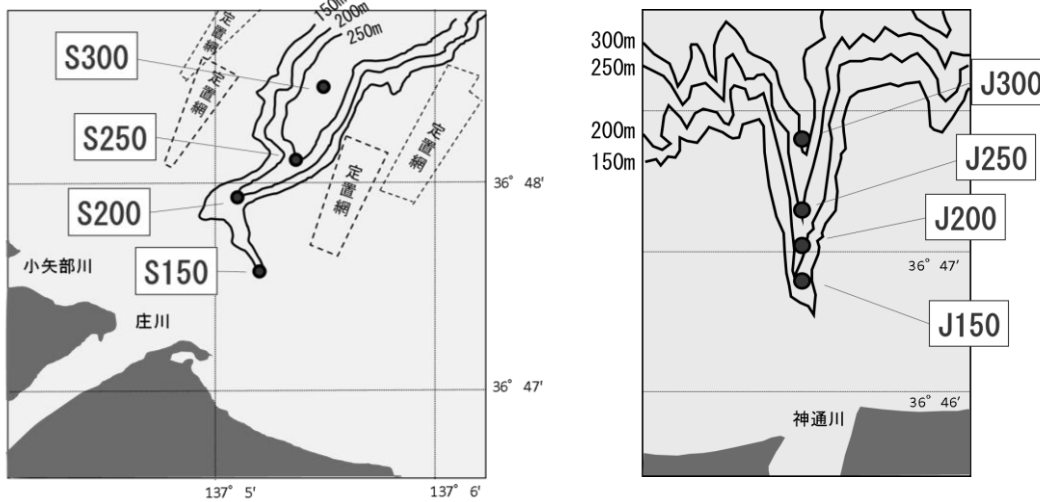


図1 庄川・小矢部川河口沖（左）と神通川河口沖（右）の調査定点

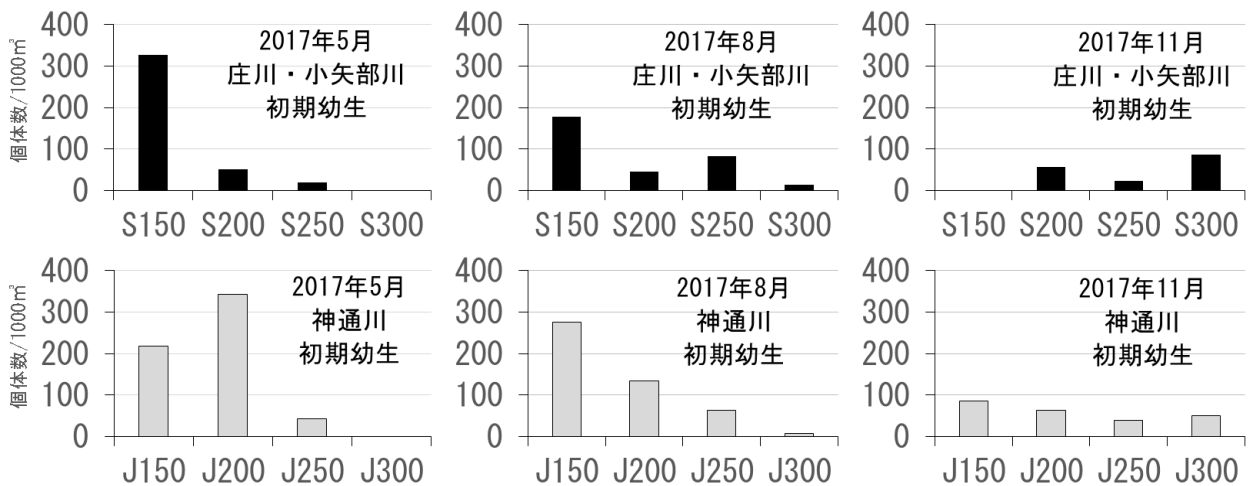


図2 庄川・小矢部川河口沖（上）と神通川河口沖（下）における初期幼生の分布密度

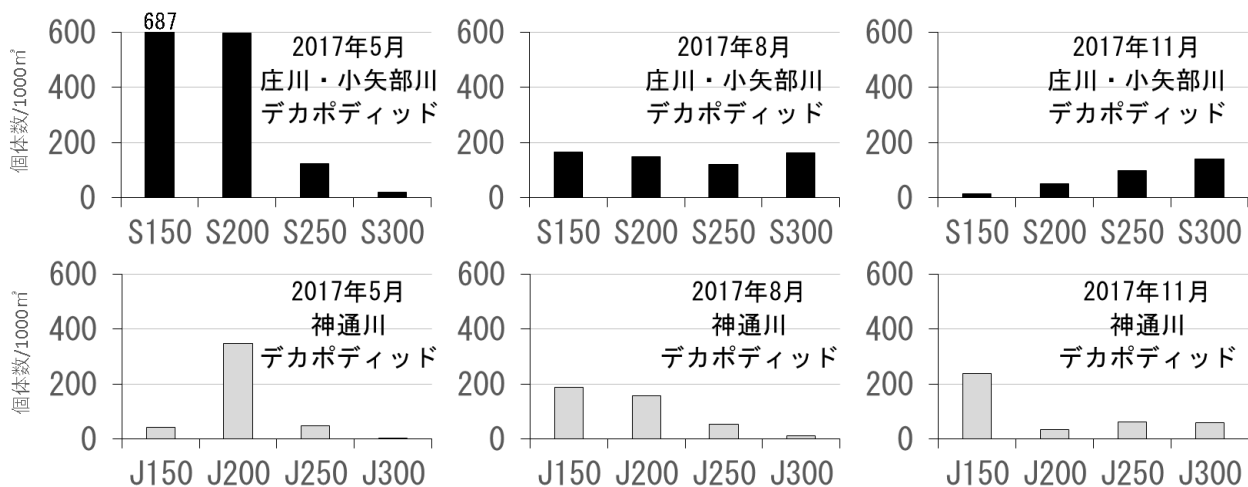


図3 庄川・小矢部川河口沖（上）と神通川河口沖（下）におけるデカポディッドの分布密度